

第1学年1組英語科学習指導案

日時 平成25年10月1日(金) 2校時

場所 1年1組教室

指導者 遠藤 宏子

1 単元名 Unit6 ベッキーのおばあちゃん (NEW HORIZON English Course 1)

2 単元目標

(1) 三人称単数現在形を使用する言語活動に積極的に参加しようとする。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(2) 人について、三人称単数現在形を用いて簡単な紹介をしたり、尋ねたり、それに答えたりできる。

(外国語表現の能力)

(3) 人についての三人称単数現在形を含む簡単な紹介文の内容を理解することができる。

(外国語理解の能力)

(4) 三人称単数現在形の使い方、疑問文、否定文、答えの文の使い分けを理解できる。

(言語や文化についての知識・理解)

3 教材について

本単元ではベッキーのおばあちゃんの紹介をする文からアメリカの人々と人気スポーツの関係について知ることができるようになっている。また、第三者のことを紹介するという場面を通して、三人称単数現在形を効果的に無理なく学習できるようにパートが設定されている。パート1では三人称単数現在形の肯定文、パート2では三人称単数現在形の疑問文とその答え、パート3では三人称単数現在形の否定文が導入されている。

「人物紹介」のスピーチを行わせる際のモデル文としても活用できる単元である。既習事項と合わせて、三人称単数現在形を理解し、表現することができるようになるとぐっと表現の幅が広がるので、人についての紹介文をつくって発表したり、人についての紹介に対して質問したり、答えたりしたりすることで実践的なコミュニケーション能力育成につなげていける単元である。

4 生徒について

(今年度は中学校英語を指導していないので、省略させていただきます。)

5 指導にあたって

ベッキーのおばあちゃんについて書かれた本文の概要を聞き取ったり、読み取ることができるようにオーラル・イントロダクション、Q&A、穴埋めシートなどの活用を工夫していく。新出単語の導入は使い方をイメージさせるようにフレーズで導入したりしていく。アメリカの人々と人気スポーツの関係からアメリカ人の生活習慣や文化にもふれ、他国の人々のくらしにも興味を持たせたい。

日本語と違って主語によって動詞の形を変化させていく、また疑問文や否定文ではその変化させたものをもとにもどす(原形にする)ということは、ほとんどの生徒にとって難しく、ここで英語がわからなくなるという生徒も少なくない。従って、人称動詞変化表の一斉声だし練習、パターン・プラクティス、教科書の音読などを大事にし、工夫して行うようにしていく。家庭学習では覚えるべき単語や文法を明確にした課題を出していく。

学習指導要領の下記の指導事項を重点として、授業を進めていく。

2 内容 (1) 言語活動

イ 話すこと

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。
- (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて問答したり意見を述べ合ったりなどすること。
- (エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。
- (オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

「考える力」を育む授業の実践の視点について

主体的に学び、コミュニケーションを豊かにする言語活動の工夫

実践的なコミュニケーション能力を育成するために目的(課題)をもたせて取り組む活動を行うことで意欲付けを図る。また、実際に相手に伝え、コミュニケーションを図る必要性を感じる言語活動(インフォメーション・ギャップを取り入れた活動や相手がまだ知らないことを伝えていく活動など)を取り入れていく。

自分の力で(「考える力」を生かし)自分が伝えたいことを表現する際にその時習った文法や言語材料だけでなく、既習事項を総動員させ、相手とのコミュニケーションに生かそうとすることができるよう活動を仕組む。「そうか、こういう時はこんな言い方をするんだな」とそれがどんな意味をもつのか、どんな使用場面で使うのかを活動中や活動後、実感としてつかみ、時間をかけて実践的な英語運用能力を生徒に身につけさせたい。相手に伝えることができた、コミュニケーションが図れた時の達成感・満足感を積み重ねていくことで主体的に学び、自己表現活動やタスク活動にはさらに意欲的に取り組むようになっていくと思われる。

コミュニケーションを豊かにする工夫としてコミュニケーションを促進するために取り入れるインタラクション(あいづち、聞き返す、確認する、理解しているかたずねるときの言い方など)を随時指導していく。常に生徒のレディネスを把握し、下位の生徒には支援を行う。中位、上位の生徒の理解力(リスニングの力)を伸ばすためにも今まで習った文法や言語材料にプラスアルファを含んだものを自然にオーラル・イントロダクションとして英語で導入していくことで、理解力(リスニング力)を向上させ、主体的な学びにつなげていく。

本単元では、自分の好きな人を紹介することで三人称単数現在形を使う活動を取り入れている。スピーチした人に質問をすることを課題をし、概要をとらえさせ、コミュニケーションにつなげたい。自己評価はCAN-DOチェック形式で目標や見通しを持たせて授業に臨ませる。スピーチ発表の時間は、相互評価カードを用い、互いのスピーチをしっかり聞き、評価させていきたい。

本時では、尋ね人を速く正確に班ごとにさがすという活動(タスク活動)を楽しみながら、三人称単数現在形や既習の事項などが入った文を読み、概要を読み取りメモをし、質問したり答えたりする活動を取り入れている。班ごとに競争するという要素を取り入れることで、スピード感をもって必要なところを読み取ったり、相手にすばやく伝えたり、答えたりする体験をさせていきたい。

6 単元の指導と評価の計画（7時間）

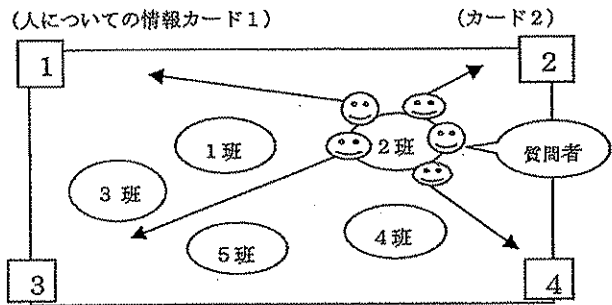
時間	学習活動	【評価の観点】評価基準（評価方法）
3	<p><i>Unit6 Part1</i> 人について紹介しよう <i>Unit6 Part2</i> 人についてたずねよう <i>Unit6 Part3</i> 人について紹介しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般動詞の三人称単数現在形（肯定文・否定文・疑問文とその応答）の形・意味・用法を理解する。 ・アメリカの人気スポーツである野球と人々の関係について理解する。 ・ベッキーのおばあちゃんについて紹介文を聞いたり、読んだりして概要をとらえる。 	<p>【理】・本文の内容において、ベッキーのおばあちゃんに関する情報を聞き取ったり、読み取ったりできる。（ワークシート）</p> <p>【表】正しい強勢、イントネーション、区切りなどに気をつけて音読できる。（観察）</p> <p>【言】主語がどのようなときに動詞に e(s) がつくのか理解し、疑問文・否定文の構造を理解できる。（活動の様子の観察・ワークシート）</p>
1	<p>まとめと復習(三人称単数現在形の復習) <i>Listening Plus2</i> 友達のプロフィール （スピーチの概要の聞き取り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三人称単数現在形について復習し、その理解について確かめる。 ・簡単な自己紹介のスピーチを聞いて、概要をつかむ。 	<p>【関】わからないところがあっても推測して聞き続けようとする。</p> <p>【知】「やってみよう」の問題を正確に解くことができる。（ワークシート）</p>
2	<p>「わたしの好きな人」(スピーチ作成)と発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人について三人称単数現在形を用いながら、紹介文を3～5文程度の英文を書く。 ・相手に伝わるように自分のスピーチを発表する。友達からの英語の質問に答える。 ・友達のスピーチを聞いてポイントを聞き取り、英語で質問する。 	<p>【表】・好きな人について簡単な紹介文を書くことができる。（スピーチシート）</p> <p>【表・理】好きな人について簡単な紹介をしたり、尋ねたり、それに答えることができる。（相互評価シート・スピーチ発表の様子）</p>
1 (本時)	<p>たずね人ゲーム(タスク活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループにわかれる。自分たちのグループでさがしている情報を教室の4つのコーナーに掲示されている英文(ある人の紹介文)から分担してメモをとってきて、グループで待機しているメンバーの質問に答え、たずね人の名前を速く正確にあてる。 	<p>【関】たずねられている人をさがす(タスク)活動に積極的に参加している。</p> <p>【理・表】人についての紹介文の概要をとらえ、それについて質問したり、答えたりできる。（観察）</p>

7 本時の指導

(1) 目標

- ・尋ね人を速く正確にあてるゲームに積極的に参加しようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・三人称単数現在形を用いて質問したり、答えたりできる。（理解の能力・表現の能力）

(2) 指導過程

時間 (分)	学習活動 【○】 主な発問・指示、【・】 期待する 反応	【・】 指導上の留意点【☆】 評価(方 法)
10	1 あいさつ 2 ペアワークシートで既習の疑問文とその答え方についてペアで復習する。	・既習の文法事項が含んだ文を即使用できるように復習する。
30	3 尋ね人ゲームについての説明を聞く。 ○ Let's play "TAZUNEBITO" Game. Make a group of five. I'll explain the rule, OK? ・ グループに分かれ、役割分担をする。 (5人グループとなり、4人はそれぞれ班内で決めたコーナーに出向き、情報をメモしてくる。残って待機している人は尋ね人カードに従い、英語で質問し、該当者がだれかあてていく。)  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・(待機している人) Does he have short hair? ・(メモを見ている人) No, he doesn't. He has long hair. ・(待機している人) Is he very busy? ・(メモを見ている人) Yes, he is.</p> </div> <p>○ I'll tell you the result. 速く正確にあてたグループの順位を聞く。</p> <p>○ Let' play the game again! 2回目のゲームを行う。(役割交代)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>情報カード (例)</p> <p>This is Matt Brown. He has brown eyes His hair is long. He works in an office. (~続く~)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>待機する人用 (例)</p> <p>尋ね人カード</p> <p>He has short hair. He gets home late He is very busy.</p> </div> </div>	・英語による説明に日本語を付け加え、ルールをしっかりと把握させてから行う。 ・教室の4隅に4人の別々の人物の情報カードを置く。班ごとにどのコーナーに行くか、待機して英語で質問する人を決めさせる。2回目は役割を交代する。1回目は下位の生徒が待機して質問する方にならないように配慮する。また生徒は自分のコーナーには何回も行ってもいいが、他のコーナーには行っていけないこととする。 ・1回目の人についての情報カードは6文ぐらい、2回目は8文程度とし、限られた時間の中で競わせる。 ☆ ゲームに積極的に参加しようとしているか。 ☆ 情報カードから概要をメモし、質問担当者からの質問に答えているか。 ・待機している生徒へ支援カードを準備しておく。 尋ね方: Is he~? Does he~? ☆ 尋ね人をさがすために適切な質問をして答えを理解しているか。 ・1回目のゲームの後にやり方でうまくいかなかったところをアドバイスする。下位の生徒を支援する。
10	4 本時の学習のまとめをする。 三人称単数現在形の使い方のまとめをする。 自己評価カードで授業のふりかえりをする。	・協力して取り組めたことなどをほめていく。 ・CAN-DO チェックを行う。

補助資料

尋ね人ゲーム 2 回目 (教室の 4 隅に置くカード)

This is Greg Fry.
He has green eyes,
His hair is short.
He is a teacher.
He is very busy.
He sometimes gets home early.
He likes music.
He doesn't like karaoke.

This is Ken White.
He has brown eyes.
His hair is short.
He is a doctor.
He is very busy.
He usually gets home late.
He likes sumo.
He doesn't cook.

This is Paul Raven.
He has green eyes.
His hair is long.
He plays the drums in a band.
He is very busy.
He often gets home very late.
He likes baseball very much.

This is Matt Brown.
He has brown eyes.
His hair is long.
He works in an office.
He is not busy.
He usually gets home early.
He likes cooking.

待機する人に配付する尋ね人カード (例)

He has short hair.
He gets home late.
He is very busy.
He doesn't cook.

He has green eyes.
He has short hair.
He gets home early.
He likes music.

第3学年1組 英語科学習指導案

平成25年11月19日(火)

男子17名 女子11名 計28名

指導者 丸川利英

Lethin Lynn

Farrell Gordon

1 単元名 夢の新商品を売り込もう ～テレビショッピング風に～

2 単元目標

(1) 既習表現(主格の関係代名詞)を用いて、身振り手振りなど聞き手が理解しやすくなるように工夫しながら、夢の新商品について積極的に伝えようとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) 既習表現(主格の関係代名詞)を用いて、夢の新商品についてわかりやすい英語で書いたり、聞き手を意識して話したりすることができる。

【外国語表現の能力】

(3) 夢の新商品についての英文を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。

【外国語理解の能力】

(4) 主格の関係代名詞を用いた文の意味・構造を理解することができる。

【言語や文化についての知識・理解】

3 教材について

本単元は、関係代名詞を理解の段階から表現の段階まで高めるという指導要領改訂の大きな方向性を踏まえ、Program7 What Is the Most Important Thing to You? (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)で主格の関係代名詞を学習した後の発展的な言語活動として位置づけた。関係代名詞については先行詞との関係や文の構造を説明しながら、口頭練習や練習問題を繰り返し行い、英文を書く活動を通して身につけさせていきたい。

また、関係代名詞の定着を図るだけでなく、「今まで学んだ基本的な語彙や文構造・知識を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した英文を書く力」の育成も大きなねらいとしている。既習の言語材料の活用と定着を図っていく中で、4技能の総合的な育成も視野に入れた指導を行っていく。更には、学んだ知識や技能を活用し、あいづち、聞き返し、繰り返し、ジェスチャーなどコミュニケーションに必要な要素を多く取り入れながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢にもつなげていきたい。

4 生徒について

授業に向かう姿勢は全体的に前向きである。しかし、英語を学習することに関しては、知識を得ることに強く意識が向いてしまっている傾向があり、自分の思いや考えを述べることを苦手としている生徒が多い。男女別のスタディ・ペア(ペアリーダーとパートナー)による学習を進め、ペア活動(音読(対話)練習、インフォメーションギャップ、簡単なインタビュー、ロールプレイなど)を行い、表現する場を設定してきた。しかし、本教科書で扱われる語彙も多く、本文の内容も難しいため、ペア活動が上記の内容にとどまったり、自分で英文を書いて終わったりする授業が多く、グループでプレゼンテーションを行うような授業をなかなか仕組むことができなかった。英文の構造や語順を大切にしたい作文指導なども行ってきたが、英語を書くことに抵抗をもっている生徒や自信のない生徒も少なくないので、今単元では、グループでの共同的な学びを通して、まとまりのある文を書く力やコミュニケーションへの活用意識の向上を図っていきたい。英語を通して共に学び合い、高め合う集団づくりを意識しながら、発表場面では自分たちにもできたという成就感や達成感を味わわせ、自信をもって今後の英語学習や入試に向かっていけるようにさせていきたい。

5 指導にあたって

本題材は、学習指導要領の下記を指導内容の重点として構成している。

2 内容 (1) 言語活動

イ 話すこと

- (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。
- (エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。

エ 書くこと

- (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

書く場面では文のつながりを考えながら、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力の育成を目指したい。また話す場面では、適切な声量で明瞭に話すなど聞き手を意識し、的確な英語を使って、大切なところは強調して話したり、聞き手がわかりにくいところは繰り返したり他の表現で言い直したりなどして、「聞き手に正しく伝える」ための発信力の育成につなげていきたい。

「考える力」を育む授業の実践の視点について

中学校英語科の視点 *主体的に学び、コミュニケーションを豊かにする言語活動の工夫

(1) 生徒の興味・関心を喚起し、コミュニケーションへの意欲を高める課題設定の工夫

「夢の新品を売りもう」という単元を貫く目標を設定することで、生徒が言語使用場面に「必要感」や「有用感」を持って、毎時間の学びをつながげながら主体的に表現活動に取り組めるようにしていく。また、ベスト・インフォーマーシャル (infomercial) 賞を設定することで、生徒の意欲を喚起していく。

(2) コミュニケーションを豊かにする言語活動の工夫

テレビショッピング風とすることで、買い手の心理も考えながら、相手意識に立ったコミュニケーション活動ができるものとする。生徒が創造性を活かしながら、既習の言語材料を組み合わせることで英文に表す(書く)言語活動、そしてそれらを聞き手にわかりやすく、効果的に表す(話す)言語活動を「思考力・表現力・判断力」の育成につなげていきたい。また、ALT のモデルを視点として班で話し合い練習したりする活動や ALT (JTE) からアドバイスをもらったりする活動を通して、発音や音量、話し方に注意したり、ジェスチャーやさまざまな表現を工夫したりするなど、内容構成力と伝達力の双方をかかわらせながら生徒の「発信力」を高めていきたい。

発表後に生徒同士で質問をしたりコメントを言ったりする場を設定し、生徒同士のインタラクティブな活動を大切にしながら、意味のあるコミュニケーション活動の中で有機的な技能の統合を図っていく。質問やコメントについては、生徒が積極的に英語を話そうとする姿勢を大事にしながらも、事前に使える表現等を確認し、それらをいかしながら実際の場面に合った英語を使えるようにする。

(3) 授業形態と学習形態の工夫

英語は知識・理解と技能習得という側面をあわせもった教科であるという特色を踏まえ、授業の進め方については、「考える力」の育成を目指して、単元の中で「教えて考えさせる授業づくり」を意識していく。教える場[説明]と考えさせる場[理解確認、理解深化、自己評価(ふりかえり)]を設定し、「教えること」と「考えさせること」を結びつけながら指導にあたる。その中で個→ペア→グループ→全体などの学習形態を工夫しながら、スモールステップを大事にして活動を仕組み、コミュニケーションに必要な基礎基本の定着を図っていく。

TT 授業を行い、できるだけ多く英語を用いること、ALT との対話や生徒、生徒間のインタラクティブな活動を大切にしながら授業を進めることで、生徒の積極的にコミュニケーションを図る態度の育成を図っていく。そのことを小中連携、そして高校への接続を視野に入れた授業の1つの視点としたい。

(4) ふり返りの場の設定と評価の工夫

ふり返りの場面では、CAN-DO チェック形式の目標を生徒と共有し、自己評価を行う場を設定

する。単元全体の CAN-DO チェック形式の目標を生徒に提示・説明することで、授業の終わりに生徒自身が「自分がどのようにできるようになったのか」を客観的に捉えながら、次時の学習に意欲や自信をもって取り組めるようにしたい。また、教師の見取りや個別の支援にも活用していく。

発表後に聞く側も質問やコメントを行う場を設定することで、目的意識を持って他の班の発表を視聴できるようにする。また、ビデオ視聴の際に簡単な評価（ジェスチャー・声の明瞭さ・スピードなど）を行うことで、目標に対する意識の向上を図るとともに、本時の学習のふり返りの視点とする。更には、授業の最後の場面で ALT から各グループへのフィードバックをしてもらうことで、それぞれのよさを共有しながら、次時の学習につなげていきたい。

6 単元の指導と評価の計画

時間	学習活動	【評価の観点】評価規準（評価方法）
1	<ul style="list-style-type: none"> 主格の関係代名詞の用法を確認し、口頭練習を行う。 関係代名詞を用いて、夢の新商品についての英文を書く。（個→ペア） 	【言】主格の関係代名詞の文の構造を理解している。（後日ペーパーテスト）
2	<ul style="list-style-type: none"> 前時で書いた英文をもとにグループで夢の新商品について考え、プレゼンテーション原稿を作成する。 	【関】必要に応じて辞書を活用しながら、グループで協力して積極的にプレゼンテーション原稿を作成しようとしている。（活動の観察）
3	<ul style="list-style-type: none"> 夢の新商品についてのプレゼンテーション原稿を完成（清書）する。 グループで役割分担を行い、発表の練習をする。 	【表】既習事項（関係代名詞）を用いた英文を適切に用いながら、わかりやすい英語で聞き手に伝わるようなプレゼンテーション原稿を作成している。（作文チェック）
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> 夢の新商品について、スピーチ原稿をもとに、グループでプレゼンテーションを行う。 他の班の発表を聞いて、英語で質問をしたりコメントを伝えたりする。 	【関】聞き手が理解しやすくなるように、工夫して意欲的にプレゼンテーションを行っている。（発表チェック） 【表】聞き手を意識して、ジェスチャー・声の明瞭さ・スピード（アイコンタクト・声の大きさ）などに注意してプレゼンテーションを行っている。（発表チェック）（後日ビデオチェック）
5	<ul style="list-style-type: none"> ビデオを視聴したり、他のグループの原稿を読んだりして、内容を理解する。 本単元の学習のまとめを行う。 	【理】ビデオを視聴し、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取っている。また、他のグループの原稿を読んで、内容を正しく読み取っている。発表の評価（活動チェック、学習プリント）

7 本時の指導

(1) 目標

- 夢の新商品について、既習表現（関係代名詞）を用いて、聞き手が理解しやすくなるように、工夫して意欲的にプレゼンテーションを行うことができる。【関心・意欲・態度】
- 夢の新商品について、聞き手を意識して、ジェスチャー、明瞭さ、スピードなどに注意してわかりやすく説明することができる。【外国語表現の能力】

(2) 指導過程

時間	学習活動	【評価の観点】評価規準（評価方法）
5	1 ウォームアップを行う。 ○Lynn and Gordon will ask you some	[・]指導上の留意点 [☆]評価（方法） ・簡単な Q&A を行う。関係代名詞を含んだ質問

	questions. Please answer them.	も入れ、本時の学習につなげる。
10	<p>2 ALTのプレゼンを視聴する。 ○ Now Lynn and Gordon will have a demonstration. Please listen to them. ○ 2人が紹介したのはどんな商品でしたか。 また、他にわかったことはありますか。 ・漢字を書いてくれるペン ・300ドルが今日だけ50ドル・・・</p> <p>3 ALTのモデルをもう一度視聴し、わかりやすく伝える(売り込む)ためのポイントを理解する。 ○ 売り込むために、どんなところを工夫していましたか。 ・ジェスチャー、明瞭さ、スピード、提示の仕方の工夫・・・</p> <p>4 本時のめあてを確認する。 聞き手を意識して、さまざまな工夫をしながら夢の新商品を売り込もう。</p>	<p>・ALTの対話による発表を聞くことで、本時の活動の見通しをもたせる。</p> <p>・ALTに1回目との違いがはっきりとわかるように発表してもらい(内容は全く同じで)、次の活動につなげる。また、ALTの発表が生徒のよきモデル(目指すゴールの姿)となるようにする。 ・生徒の気づきや発言を大切にしながら、今日のプレゼンで大事にしたいことを掲示し、全体で共有化する。既習の確認、ポイントを絞る。</p>
10	<p>5 よりよいプレゼンになるように練習する。 ○ Let's have a practice now. I'll explain you what to do next. ○ Practice your presentation in your group.</p>	<p>・スムーズに活動に入れるように、パワーポイントを用いて練習の仕方などを確認する。 ・ALT(JTE)からポイントに沿ってアドバイスをもらう場を設定する(記入させる)ことで、より高まりのある発表につなげる。</p>
20	<p>6 プレゼンテーションを行う。 ○ I'll explain the rules about this activity. ①グループごとに前に出てきて発表し、他のグループは聞く。(メモ程度) ②発表に対する質問やコメントを英語で言う。 → 答える ③全てのグループの発表が終わったら、各グループに対して、ALTからコメントをもらう。(表現のよさ[ポイントに沿って]、内容の面での評価だが、特に本時の目標にかかわる部分を中心に評価する。) ④最後にALTからベスト・インフォーマーシャル賞とその他の賞を発表してもらう。</p>	<p>・ビデオを設置し、テレビショッピングの撮影を意識させるとともに、次時のふり返りと評価につなげる。</p> <p>☆聞き手が理解しやすくなるように、工夫して意欲的にプレゼンテーションを行っているか。(発表チェック) ☆聞き手を意識して、ジェスチャー・声の明瞭さ・スピード(アイコンタクト、声の大きさ)などに注意してプレゼンテーションを行うことができたか。(発表チェック)ビデオは事後評価</p> <p>・質問やコメントは、多少文法等が間違っても、一生懸命英語を話そうとする姿勢を大事にする。ALTからも質問してもらい、既習事項を即興で活用するす場を意図的に仕組む。生徒の表現のよさなどを全体に広げる。</p>
5	<p>7 評価とまとめ ○ Please write on your Can-do check and evaluation sheet.</p>	<p>・授業のふり返りを行う。生徒のがんばりをほめたりしながら、今日の学習が次の学びにつながることを確認させ、意欲づけを図りたい。</p>

第2学年1組 英語科学習指導案

日 時 平成25年11月14日(木) 3校時
場 所 2年1組教室
生 徒 男子19名、女子13名 計32名
指導者 JTB 清水良之
ALT Gregory Davis

1. 単元名 New Horizon English Course 2 Unit 6 「The Story of an Old Clock」

2. 単元目標

- (1) there 構文や動名詞を使って、表現活動に積極的に取り組むことができる。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) there 構文を用いて、物がある場所を適切に伝えたり、たずねたりすることができる。
(外国語表現の能力)
- (3) there 構文や動名詞を含む教科書の対話文等を読んでおおよその内容をつかむことができる。
(外国語理解の能力)
- (4) there 構文や動名詞の意味を理解し、使用場面を考え適切に使うことができる。また、「大きな古時計」にまつわる物語を読んで、場面の変化や登場人物の心情を読み取ることができる。
(言語や文化についての知識・理解)

3. 教材について

本単元では、海外旅行計画中のブラウン先生の様子や、日本でも有名な歌「大きな古時計」が生まれた物語が取り扱われている。この歌は原曲が外国のものであり、実話に基づき作詞・作曲されたことはあまり知られていない。そうした背景を知ることが異文化を理解する上でも大切なきっかけになると思われる。また心温まるエピソードであり、場面の変化や登場人物の心情を読みとるのに適した題材となっている。

新出の文法事項としては there 構文と動名詞が扱われている。there は「そこに」という意味で既習の語句であるが、この構文では単にものの存在を表すだけで場所の観念がなく形式的な主語の役割を果たしている。意味を取り違えなければ、比較的平易な文法事項であると思われる。There is (are)の後には「もの」「場所」というように語順が決まっており、語句を入れ替えた練習をしやすい、語彙の獲得や運用力を高める上でも適しているといえる。

動名詞は動詞の主語や目的語になるという名詞的な働きがある。動名詞だけを目的語にとる動詞を用いて導入し、不定詞の名詞的用法との違いを理解させていきたい。

4. 生徒について

英語に苦手意識を持っている生徒が多いが、あきらめず学習に取り組んでいる。男子は特に「書く」「読む」などの地道な活動が苦手な傾向が大きい。挙手発言も少なくはないが男女とも特定の生徒になりつつある。全体では声が出るものの、個人の発表や発言になると声が小さく自信のなさが見られる。授業に対して受け身にならないよう、発問や活動について考慮していきたい。

there 構文に関して、事前に行った「主語によって be 動詞を選ぶ問題」では正答率がほぼ 100%であった。語順が理解できれば、be 動詞の選択について混乱はないと思われる。

5. 指導について

視点：主体的に学び、コミュニケーションを豊かにする言語活動の工夫

(1) 語彙や文型の習得

豊かなコミュニケーションのためには、基本となる語句や文型をできるだけたくさん身につける必要がある。授業の中で、英語の音声に触れる機会を多くしたり、掲示物などで英語学習の環境作りをしたりして、インプット量を増やしていく事を配慮したい。また、音読や書き取り練習など地道な積み重ねをおろそかにせず継続していきたい。

(2) 学習形態の工夫

インプットした学習内容が単なる暗記にならないよう、アウトプットするための相手や場面を設定していかなければならない。本時では、基本文の導入の後、インフォメーションギャップを用いたペア活動を行う。ある部屋の様子を見ながら文を作り、それを的確に伝えながらペアとの違いを見つけられるようにしたい。次のグループ活動では、ALT の英語を聞き、それを絵に表す Picture Describing を行う。グループ内で協力し、教え合いながら活動を進め、最後にはできあがった絵をナレーションする場面を設けた。個と個、全体と個といったかかわりややりとりの中で英語のコミュニケーション能力を育み、学習を深めていきたい。また、暗唱や寸劇といった様々な活動から、生徒を多方面で評価し良さを引き出せるような指導をしていきたい。

(3) 言語活動の工夫

言語活動では英語を使用する具体的な場面や状況を設定していく。また活動は、意味の伝達が中心になるよう心がけ、その中で間違いやつまずきに気づかせていきたい。そうすることで学んだ内容を知識として確実に定着させ、生徒の自信につなげていきたい。また、単なる語句の入れ替えや一文レベルで終わるものではなく、既習事項や情報を手がかりに自分の経験や考えをふまえて、わかりやすく伝えたり理解したりできるようなコミュニケーションにまで高めていきたい。生徒が興味・関心の持てるタスクを準備し、そのねらいを明確にすることで、充実感のある言語活動へとつなげていきたい。

6. 指導計画 (6 時間計画)

	学習内容	【評価の観点】 評価基準 (評価方法)
1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ There is (are)~の文の語順や前置詞の用法を知る。 ・ There is (are)~を用いた対話練習や活動を行う。 ・ There is (are)~の語順や前置詞の用法を学び、ワークシートで定着を図る。 	<p>【関】 ペアやグループなどにおいて、間違えることを恐れず話している。 (相手に正しい情報を伝えようとしているか観察して判断する。)</p>
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ There is (are)~の疑問文の語順や答え方を知る。 ・ There is (are)~の疑問文を用いた対話練習や活動を行う。例：「相手の部屋にあるものはなにか」という活動を行う。 A : Is there a desk in your room? . B : Yes, there is.. 	<p>【関】 ペアやグループなどにおいて、間違えることを恐れず話している。 (相手に正しい情報を伝えようとしているか、また相手から必要な情報を聞き出しているか観察して判断する。)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートで定着を図る。 	
1	<ul style="list-style-type: none"> 新出語句の読み、意味を知る。 本文の音読練習をくり返し、内容を正しく読みとり、語句を入れ替えながら対話活動を行う。 その他の重要表現や文化を知る。 ワークシートなどで定着を図る。 	<p>【表】教科書の本文を参考にペアで対話文を作り発表することができる。 (強勢、リズム、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音 声に注意しているか、発表を見て 評価する。)</p>
1	<ul style="list-style-type: none"> 目的語として使われる動名詞の用法を理解する。 新出語句の読み、意味を知る。 本文の音読練習をくり返し、内容を正しく読みとる。 本文の内容を理解し、時間の経過をつかむ。 その他の重要表現を知る。 ワークシートで定着を図る。 	<p>【理】時間軸に沿って物語を読み取ることができる。 (ワークシートへの記入により評価する。)</p>
1	<ul style="list-style-type: none"> 主語として使われる動名詞 (~ing) の用法を理解する。 新出語句の読み、意味を知る。 本文の音読練習をくり返し、内容を正しく読みとる。 本文の内容を理解し、登場人物の心情に迫る。 その他の重要表現を知る。 ワークシートで定着を図る。 	<p>【理】登場人物の心情に沿って物語を読み取ることができる。 (ワークシートへの記入により評価する。)</p>
1	<ul style="list-style-type: none"> There is (are) ~の文について復習する。 動名詞について、不定詞や現在分詞と混同しないよう整理し復習する。 ワークシートで定着を図る 	<p>【言】There is (are) ~や動名詞について理解している。 (テストなどの解答により理解度を知る。)</p>

5. 本時の指導

(1) 目標

- ① there 構文を用いて「…に～があります」を正しく書くことができ、相手に伝えることができる。
- ②間違いを恐れず、発音練習や活動に積極的に参加することができる。

(2) 指導過程

時間	学習活動 〔○〕 主な発問、〔・〕 期待する反応	〔・〕 指導上の留意点 (☆) 評価 (方法)
5	1, あいさつする 2, ALT の英語を聞き内容を考える。(there 構文) ○今何と言ったと思いますか? ○今どんな音が聞こえましたか? ・ There is a cup on the desk. ○前の文とどこが違いますか? ・ There are two cups on the desk.	<ul style="list-style-type: none"> 黒板にイラストを提示し、英文の意味を予想させる。 ALT の音声が届き取れない場合はゆっくりくり返す。

分	<p>○どんな時に is と are を使い分けますか?</p> <p>3, 本時の課題を捉える。</p>	<p>・本時の課題がつかめたか観察する。</p>
<p>「…に～がある」という表現を使ってみよう。</p>		
展 開 40 分	<p>4, 前置詞の復習と意味の確認 on, in, under, by (between, near, over)</p> <p>5, 構文の pattern practice を行う。 ○語句を入れかえながら練習しよう。</p> <p>6, there 構文を使った活動を行う。 (ペア活動: 絵を見ながら there 構文を書き、伝える。) ○絵を見ながらできるだけたくさん文を作ってみよう。作った文を相手に伝えよう。 ○となりの人とペアになり、よく聞いて違いを見つけよう。 If you find the differences, circle them</p> <p>7, there 構文を使った活動を行う。 (グループ活動: ALT の英語を聞き取りグループで絵に表す (picture describing)) ○グレッグ先生の町の様子を絵に表してみよう。 ○ I draw a picture of a place. I'll describe it to you. Please draw it. There is ~. ...</p> <p>8, できあがった絵を発表し、ナレーションする。 ○できあがった絵を見せながら説明してみよう。 ○ Please show us your picture, and tell us about it.</p>	<p>・絵を使い確認する。</p> <p>・簡単な語句から入れ替える。物→場所</p> <p>☆語順に注意しながら正しい英文が書けるか。</p> <p>☆相手に正しく伝えることができるか。</p> <p>・適切に 3 文以上解答できているか机間指導する。</p> <p>・特定の生徒だけの活動にならないよう注意する。</p> <p>・グループで協力して活動しているか観察する。</p> <p>☆相手を意識し、ナレーションできたか。</p> <p>・発表後には拍手させ、賞賛させる。</p>
ま と め 5 分	<p>9, ワークシートを使い、基本文型の確認をする。</p> <p>10, ワークシートの there 構文の問題を解く。 ○答え合わせしながら学習したことを確認しましょう。</p>	<p>☆語順に注意しながら正しい英文が書けるか。</p> <p>・適切に 3 文以上解答できているか机間指導する。</p> <p>・低位の生徒に個別に支援する。</p>